

# 令和4年度 第2回外部評価委員会

## 事務事業評価シート

事務事業評価シート(対象:R3年度実施事業)

事務事業名			工業振興事業	所属コード	1602000			位置付け	■ 主要事業		■ 総合戦略		■ 市長公約								
部			市民活力推進部	実施主体			● 市		■ 県		■ 国		■ その他								
課			商工観光課	継続年数			● 5年以下		■ 6~10年		■ 11~15年		● 16年以上								
大施策(節)			3 活力ある工業づくり	係・担当			商工・企業立地係			根拠法令等			● 有 [ 八潮市工業振興基金条例 ]		■ 無						
基本施策			3 新時代に対応する工業の育成	担当者名			羽鳥 和弘		内線		479		事業の対象								
予算科目			会計	01		款		7		項		1		目		2		事業		6	
事業目的			・新製品の開発や新たな研究に対する支援を行い、新時代に対応する工業を育成する。 ・市内製品のPRを積極的に行い、販路拡大や受注機会の拡大を推進する。						事業概要			・市内建築関連事業者の受注機会の拡大を図るため、住宅改修費用の一部を補助する。 ・経営の安定に資する事業を対象に経費の一部を補助する。 ・八潮ブランドを認定し、市内で製造されている工業製品の特長等について市内外に情報発信する。									

単位：円		R2決算	R3予算	R3決算	R4予算
事業費(A)		10,362,194	12,027,000	15,821,966	12,331,000
事業費の内訳	委員報酬				
	物件費	336,485	52,000	26,423	343,000
	維持補修費				
	扶助費				
	補助費等	10,025,700	11,974,000	15,795,535	11,987,000
	普通建設事業費				
財源の内訳	その他	9	1,000	8	1,000
	国庫支出金			4,396,863	
	県支出金				
	市債				
	その他				
一般財源		10,362,194	12,027,000	11,425,103	12,331,000
職員数(人/年)		0.61	0.61	0.61	0.61
職員人件費(B)		4,684,190	4,684,190	4,395,354	4,656,130
総事業費(A+B)		15,046,384	16,711,190	20,217,320	16,987,130
人件费率(B/(A+B))		31.1%	28.0%	21.7%	27.4%
予算執行率(職員人件費除く)		—	—	131.6%	—

事業の実施状況(見込み)	
令和2年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>市外の展示会・商談会の出展費用の補助を行った。</li> <li>住宅改修資金補助事業を実施した。</li> <li>工業振興基金を活用して、工業の振興に寄与するPRを行った。</li> <li>試験機関等利用補助事業のPRを図った。</li> </ul>
令和3年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>八潮ブランド認定事業として認定を行った。</li> <li>八潮市優良技術者及び技能者表彰要綱に基づき選定、表彰を行った。</li> <li>市外の展示会・商談会の出展費用の補助を行った。</li> <li>例年実施している住宅改修資金補助事業のほか、新型コロナウイルス感染症の臨時交付金を活用し、予算を追加して住宅改修資金補助事業を実施した。</li> <li>工業振興基金を活用した産学官共同研究事業により、新商品を開発した。</li> </ul>
令和4年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>八潮ブランド認定事業として認定を行う。</li> <li>八潮市優良技術者及び技能者表彰要綱に基づき選定、表彰を行う。</li> <li>市外の展示会・商談会の出展費用の補助を行う。</li> <li>住宅改修資金補助事業を実施する。</li> <li>工業振興基金を活用して、工業の振興に寄与するPRを行う。</li> <li>試験機関等利用補助事業のPRを図る。</li> </ul>

活動指標名	単位		令和2年度	令和3年度	成果指標名	単位		令和2年度	令和3年度
住宅改修資金補助件数	件	計画	100	100	住宅改修資金補助対象工事額	千円	目標	60,000	60,000
		実績	106	163			実績	76,271	126,332
		計画					目標		
		実績					実績		

■事業の評価 (R3年度の事後評価)

①必要性の評価		評価者名	本田 貴裕
当該事務事業について市が関与する必要性			
● A:非常に高い		B:高い	
		C:ある程度認められる	
判断理由	法律、政令、省令、通達等により、市に実施が義務づけられている		
	事業を止めた場合、市民の生命、財産等に大きな影響を与える恐れがある		
	■ サービスの拡大や充実を求める市民意見・要望が増えている		
	市が何らかの関与(監督、指導等)をしないと、問題が発生する可能性がある		
	■ 当該事務事業が解決すべき課題が増えている。増えることが予想される		
	その他		

②目標達成度の評価

R3年度の目標達成度			
● A:達成した(100%)		B:概ね達成できた(80%以上)	
		C:達成できなかった(80%未満)	
判断理由	■ 活動指標の目標を達成した	■ 成果指標の目標を達成した	
	■ 業務改善方針等の指標に現れない目標を達成した		
	達成できた内容/できなかった内容・理由(必ず記入)		
	住宅改修補助事業における活動指標及び成果指標では、いずれも目標を達成しているほか、当該事業は、補助金利用者(市民)はもとより、市内施工事業者からも評価が高い。		
	その他、初めて産学官連携事業を実施し、新商品開発を行った。		

③実施内容・方法の評価

成果向上やコスト削減のための見直しの余地			
■ 余地が大きい		● 余地がある	
		■ 余地が全くない	
判断理由	民間委託や指定管理者制度の活用などの事業手法を再検討する余地がある		
	■ 事業費や人件費などのコストを圧縮する工夫が考えられる		
	業務の進め方や手続き(業務プロセス)を簡略化・簡素化することが考えられる		
	■ 社会情勢やニーズの変化等により、サービスの対象・量・水準を見直すことが考えられる		
	成果を高める工夫が考えられる		
	その他		

④公平性の評価

i. 受益者が一部に偏っているか			
■ 偏りがある		● やや偏りがある	
		■ 偏りがない	
		■ 非該当	
ii. 受益者負担の見直しの余地			
■ 余地がある		■ 余地がない	
		● 受益者負担がない	
		■ 非該当	
判断理由	■ 使用料・手数料等の料金設定を市で行うことができる		
	■ 国や県、民間事業者等が同種・類似サービスを提供している		
	■ 受益者の負担割合が国等の定めている基準を下回っている		
	■ 使用料・手数料等の見直しから5年以上経過している		

■計画期間を通じての課題と対応策

課題	評価時点で認識されている問題・課題		
	■ 課題はほとんどない	■ ある程度課題がある	● 大きな課題がある
考えられる対応策	埼玉県内では有数の工業都市である本市ではあるが、受注量の減少などの問題により、年々事業所数が減少している。		
考えられる対応策	八潮市で製造、生産、加工、企画及び販売された優れた製品を「八潮ブランド」として認定し、認定品を市内外に情報発信することで、まちの価値や八潮産の製品などの信頼性を更に高め、本市の知名度アップと地域の活性化を図る。		

■総合評価(最終目標に対する進捗状況)

☆☆☆: 順調(最終目標達成に向け、順調に成果があがっている)  
 ☆☆: 概ね順調(最終目標達成に向け、やや遅れているが概ね順調)  
 ☆: 遅れ(このままでは、最終目標の達成が難しい)

総合評価	☆☆☆ 順調	判断理由
		住宅改修資金補助事業の実施により、市内の建築関連事業者の受注機会の拡大で大きな効果を挙げることができた。また、工業振興基金を利用した産学官共同研究事業により、事業者と日本薬科大学、行政が連携し、新たな特産品となるレトルトカレー「八潮かりい」を開発した。

■今後の方向性(計画期間を通じての方向)

方向性	● 現状のまま継続	■ 休止・廃止	■ 終了・完了
	■ 見直して継続	■ 他事業と統合して継続	
	➤ ■ 重点化(拡充)	■ 手段を改善	■ 効率・簡素化
経営資源(R4年度比)	■ 事業費	■ 増加	● 現状維持
	■ 労働量	■ 増加	● 現状維持
今後の実施方針(改善方針)	ヒトに焦点をあてた八潮市優良技術者及び技能者表彰と、モノに焦点をあてた八潮ブランド認定品を両輪として、市内外に情報発信することで、八潮市の知名度アップと地域の活性化を図り、販売拡大と受注機会の促進を図っていく。住宅改修資金補助事業については、補助対象者及び建築関連事業者双方にメリットがある事業であるため、効果等を検証し、引き続き実施していく。		